

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2192200018
法人名	株式会社共寿
事業所名	グループホーム南濃福寿苑
訪問調査日	平成 21 年 2 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 19 日
評価機関名	旅人とたいようの会

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2192200018
法人名	(株)共寿
事業所名	グループホーム 南濃 福寿苑
所在地	岐阜県海津市南濃町松山字四番代426-1番地 (電話)0584-59-0051

評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年3月19日

【情報提供票より】(平成21年2月19日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 8 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	11.4

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階	部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	37,500 円	
敷金	有( )円 ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 550 円			

### (4) 利用者の概要(2月17日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低	68 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	可知医院、野村クリニック、海津市医師会病院、南濃歯科
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の理念である「住み慣れた地域で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスの提供」のもと、利用者が安心して生活できるよう、利用者のペースで、利用者と一緒に暮らすサービスを、職員一人ひとりが実践しているホームである。管理者は、常に、利用者が職員の親や身内であったなら、どのようなサービスを提供したいかを念頭において利用者に接するようにと、ミーティングの場で繰り返し職員に伝えている。天気の良い日には、利用者はホームの庭に出て、思い思いの行動を楽しんでいる。室内では、職員は、一人でくつろいでいる利用者を見守りながら、カラオケをしたり、将棋やゲームを、利用者の中に入って一緒に楽しみながら生活している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回は当ホームの最初の評価に当たるため、該当なし。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回は年度の締め切り寸前に評価を受けることを決めたため、職員には評価への取組について伝達したが、全員で自己評価票を作成することができず、管理者のみで対応した。次回には全員での取り組みを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議は年4回のペースで実施している。この会議の開催に合わせてホームの行事を企画し、多くの家族の参加が得られるよう努めている。地域に対してホームが持っている知識を伝えていきたいと考え、会議を通じて、どのようなニーズがあるかを探っている。当初はホームからの運営状況の紹介だけであったが、最近は出席者からの意見が得られるようになってきている。これからのテーマとしては災害対策をとりあげようとしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の訪問機会が多く、地元出身者の職員が多いこともあって、職員を知っている利用者の家族から色々な要望が職員に気軽に寄せられており、その都度サービスに反映させ、結果を家族に報告している。変化のあった利用者の状況は、月度の金銭報告と一緒に個別に添付して報告している。要望・苦情の対応を含めて、ホームの活動を定期的に家族に紹介することを目標にした「南濃だより」を発行している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域に対してホームが持っている知識を伝えていきたいと考え、運営推進会議を通じて、どのようなニーズがあるかを探っている。近くの保育園には2ヶ月に1回程度のペースで訪問したり、ホームの季節の行事には園児を招待して、地域交流の足がかりとしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念である「住み慣れた地域で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスの提供」をホームの理念にしており、ホーム独自の理念は持っていない。		法人の理念そのままではなく、地域密着型サービスの役割、意義を全員で考え、ホーム独自の理念を作り上げて欲しい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関やタイムカード付近など、職員の目にとまり易い場所に掲示して、全員で理念の共有を図っている。理念を実践するためにはどのような介護が必要かは、管理者から、利用者が自分の親や身内であったなら、どのようなサービスを提供したいかを念頭において接するようにと、ミーティングの場で繰り返し職員に伝えている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には入会しており、地域からは地域の行事への参加の呼びかけがある。近くの保育園には2ヶ月に1度程度のペースで訪問したり、ホームの季節の行事には園児を招待して、地域交流の足がかりとしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は年度の締め切り寸前に評価を受けることを決めたため、職員には評価への取組について伝達したが、全員で自己評価票を作成することができず、管理者のみで対応した。		次回からは、運営者、管理者、職員全員で評価の意義を話し合い、自己評価に取り組まれることを期待したい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は年4回のペースで実施している。この会議の開催に合わせてホームの行事を企画し、多くの家族の参加が得られるよう努めている。地域に対してホームが持っている知識を伝えていきたいと考え、会議を通じて、どのようなニーズがあるかを探っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には運営推進会議の場を借りてホームの状況を説明している。また、今後の法改正に伴う内容(スプリンクラーの設置)についても相談している。「南濃だより」が作成されれば、発行の都度担当者にも配布して、ホームの理解を深めてもらう予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問してくれる家族には、その都度利用者の状況を説明している。変化のあった利用者には状況報告を個別に行っている。「南濃だより」を定期的に発行して全家族に配布し、ホームの状況を知らせる予定であったが、最近この発行が止まっている。金銭報告は、毎月実施している。		全ての利用者の家族に、定期的に共通の情報を伝える手段として「南濃だより」の定期的発行を期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地元出身者の職員が多いこともあって、職員を知っている利用者の家族が多く、色々な要望がそれらの職員に気軽に寄せられている。一方、言いにくい意見や苦情があることに対しては、公的機関の相談窓口があることを紹介している。寄せられた意見、要望にはホームをあげてすばやく対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職希望にはなるべく配置転換で対応したいと考えている。異動の際は、十分な引継期間を設け、この間に異動した職員には時々顔を見せてもらうなどして、馴染みの関係を断ち切らないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員個々に介護の目標を持たせている。研修会への参加はいつでも認めているが、職員は勤務体制の関係もあって外部講習への参加の機会が少ない。外部講習を受けた場合は、全体会議の中で受講報告を実施している。受講報告のない場合は、看護師や管理者からホームが必要とする教育を実施している。		内部研修は行われているが、勤務体制の関係もあって外部研修に参加する機会が少ないので、皆で話し合いを持ち、年間計画の中で外部研修を位置づける工夫を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西濃地区の施設を対象に開催する介護教室には積極的に参加し、同業者との交流を情報交換等で深めている。参加した職員は、ホームに戻って全体会議で内容を報告し、話し合いを持ってサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居が決まると、担当者が家庭を訪問して、家族から利用者の生活歴を聞いたり、ホーム入居前の情報やケアプランを家族を交えて確認して入居してもらっている。入居当時は家族の援助も得ながら、利用者がホームの生活にスムーズに移行できるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>介護の一つ一つを「させていただいている」という考え方を基本として、利用者と一緒に暮らしながら、人生の先輩から教えていただくという関係が築けるよう対応している。畑の作物は利用者の手を介して食材に、料理の仕方も利用者から教えてもらえるような関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、一緒に過ごす時間の中で利用者との会話から、また、利用者同士の会話に耳を傾けながら、その中で出てきた利用者の意向、要望を汲み取り、「今の私」、「私の思い」、「スタッフにできること」に分けて情報を集め、サービスに反映させている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、毎月開催の全体会議の中での職員全員の気づきや意見、訪問時等の家族の意見、及び、「思いや意向の把握」として集められた情報等を活用して作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは3ヶ月に1回を定期とし、怪我、入院など利用者の状態変化があった時は、家族や医師等の関係者の同意を得て、その都度実施している。「今の私」、「私の思い」、「スタッフにできること」に分けて収集された経過情報を参考に評価し、介護計画の変更につなげている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて、家族と利用者と一緒に外出したり、利用者の外泊支援を行っている。また、通院、外食、近所の温泉入浴、図書館への通いの支援等も行っている。ホームでは、予備室を用意し、家族の宿泊にも対応できるようにもしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が受診援助をしている人を除き、ホームで通院の支援をしている。かかりつけ医(主治医)以外の医療機関を受診した時は、受診結果について医師から文書を持ち、かかりつけ医に報告している。家族には受診前後に連絡をとり、受診の説明、了解、結果報告をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは、入居時に、希望があれば終末期まで対応することを家族に伝えている。利用者の状況の変化に応じて、関係者全員で、最期をどこで迎えるかを相談しながら、その都度対応を確認し、その結果を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は「何々しますよ」と声かけをした後に物事を進める介護を行っている。また、自分がされていやだと思わない、を申し合わせ、「このようなことは言ってはいけない、してはいけないリスト」を作成し、職員全員に配布して、一人ひとりの誇りを傷つけない、プライバシーをそこなわないように配慮している。記録等の取り扱いにも注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間の対応から始まって、利用者の生活のペースに合うような支援をしている。朝、夕の着替えは、利用者の好みを大切に、その日その日で身だしなみをきれいに保つ支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者毎の「嫌いなもの、好きなもの、食べてはいけない物」は表にして、冷蔵庫の横に貼り出している。利用者の得意の料理は、声かけて積極的に料理づくりに参加してもらえるようにしている。利用者の力に合わせて、配膳や下膳も職員と一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一般浴、シャワー浴、機械浴の設備を揃え、毎日、昼間はいつでも、入浴の希望に対応できるようにしている。入浴を嫌がる利用者には、時間をずらした声かけ等しながら、週2回以上入浴が出来る工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日めくり、水やり、居間・居室の掃除、カルタの読み役、タンバリン演奏など、利用者が希望したことは、その利用者の役割として対応している。利用者が退屈しているような様子が見えた時には、職員は、一緒にカラオケなどを楽しめるような工夫をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は、利用者の気分転換のために、天気が良く、風のない日を選んで、希望に合わせて実施している。ホームの庭に用意したベンチのある所には、職員も一緒に毎日のように出て、外気浴を楽しんでいる。介助の必要な人も利用者の協力を得て一緒に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造から、玄関は事務室及び各ユニットからガラス越しに見えるようになっていて、利用者が外に出たいという雰囲気があれば、それを察知して一緒に外に出るなど、鍵かけの弊害を少なくするよう心がけている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練は年2回行うことにしているが、予定した当日の天候等の影響で1回しか実施できていない。職員は昼間の対応は出来ると考えているが、夜勤時の対応には自信が持てていない。また、地震、水害のような災害時の地域住民との訓練は実施されていない。		運営推進会議の場を利用して、地域住民の協力を得るかたちで、地震や夜間の災害を想定した防災訓練の計画を早期に立案され、実施されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の介護記録により、水分量や食事摂取量を把握している。嚥下障害のある利用者にはキザミ食の支援が、糖尿病食が必要な利用者には量を加減する支援が行われている。摂取カロリーや栄養バランスの観点から、献立を栄養士にチェックしてもらうことはされていない。		献立については、カロリーや栄養バランスの視点から、機会があれば、栄養士等にチェックしてもらいたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や広めの廊下には形の変ったソファや椅子を用意し、団欒や個人の居場所の確保が出来るよう工夫している。特に、廊下のソファに座ると山や田んぼが見え、季節感を確認できるようになっている。和室には堀コタツを用意し、雪見障子を配置して、団欒やゲームも楽しめるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の家族の写真、衣装ケース、好みのアクセサリ等、思い思いのものが持ち込まれ、過去の生活の延長のような、その人らしい生活空間が確保されるように配慮している。		